



「野田はまなす会総会および ふるさと交流会」開催

今年は4年ぶりの開催となり、銀座の会場で約60人の参加者がありました。事業計画と予算などを承認しました。二次会も約40人が参加し、盛会となりました。

6月15日正午から、令和5年度の野田はまなす会総会及びふるさと交流会が、銀座のパーティーエタニティーにおいて開催されました。今年はコロナウイルスの感染拡大防止のため3年間開催を控えていましたが、約60人の出席者で賑わいました。

来賓として故郷野田村からは小田祐土村長、廣内和之前村議会議長のご出席をいただきました。近隣の友好団体からは、東京様似会、久慈ふるさと会、ふるさと普代会、東京大野つばさ会、在京軽米会、久慈高校同窓会東京支部、久慈地区高校東京同窓会などの会長、幹事長、役員の皆さまからご出席いただきました。

総会では、令和4年度の事業報告と決算及び令和5年度の事業計画と予算案が提案どおり全会一致で承認されました。小田村長と廣内前村議会議長よりお祝いのごあいさつをいただき、総会は円滑に終了しました。

続いて、ふるさと交流会は、第三代会長で、桜庭昌吾顧問・相談役の乾杯の発声で賑々しく開始されました。来賓祝辞は、友好町村となつている東京様似会の橋爪年幸会長と東京大野ふるさと会の福島義雄会長からいただきました。

特別ゲストとして、野田観光大使であり、民謡歌手の伊藤多喜雄様、ハイクラソーナの佐野啓様（トランペット奏者）、

岡野智光様（ギター奏者）をお招きし、会場を和やかに格調高く盛り上げてくださいました。伊藤様には「よさこいソーラン節」の創作の頃の話を話され、熱唱してくれました。

野田村の観光物産館はあぶるで、村の特産品販売も行われました。のだ塩ラーメン、干しシイタケなど、すぐに完売していました。

ハイクラソーナの佐野様、岡野様には岩手県の北三陸を舞台とした朝ドラ「あまちゃん」のテーマソングを皮切りに、懐かしのメロディーを吹奏いただき、会の最後は、「ふるさと」「野田中学校校歌」の伴奏で、出席者全員で歌い、お開きとなりました。



販売された特産品

ごあいさつ



会長

久慈士郎

会員の皆さん、お元氣でお過ごしですか。今年の夏も記録的な猛暑で熱中症や、異常降雨による浸水、土砂災害などの甚大な災害が連日報道されました。会員の皆さまにおかれましては、この厳しい環境のなかを無事乗り切り、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。これからも異常気象は続くと思われるので、体調管理には十分気を付けてお過ごし下さい。

と皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

野田村の現況について、小田村長、廣内前村議会議長から復興事業は全て完了したこと、野田IC（インターチェンジ）近くに交流物産館を計画、野田小学校を中学校そばに移転、村の人口3900人台に減少したこと、3日間の野田まつりの復活、そして漁協にて19年振りに港まつりを開催予定との説明がありました。

今回の会場は霞が関ビルの東海大学校友会館がコロナ感染症の拡大により令和2年7月をもって閉館となったことから、中央区銀座6丁目ダイワ銀座ビル地下2階のパーティー会場となりました。ふるさと交流会では東京地区幹事の加藤和子さ

ん（根井出身）の司会進行のもと、ハイクラソーナの皆さんによる懐メロ演奏、そして野田村観光大使でもある伊藤多喜雄さんにも特別参加をいただき、絶妙なトークと民謡で時間の経つのも忘れり上がりしました。最後にハイクラソーナが奏でるメロディーに乗せ、全員で声高らかに母校野田中学校歌を合唱し、閉会を迎えました。それでも語り尽くせぬ想いで会員のほとんどが二次会に突入し、村出身者同士が誰にも気兼ねなく語り合う姿は大変有意義でありました。また一年後元氣に再会できることを願って散会としました。

結びに日頃より、当会へのご協力とご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。また年会費についても何かと出費多き折かと存じますが、何卒野田はまなす会の活動をご理解いただきご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ



野田村議会議長

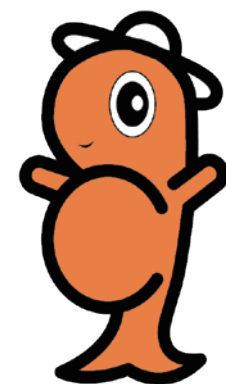
米田忠一

残暑厳しい折、「野田はまなす会」の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。今年のお盆は、野田村もこれまでにない暑さが続き、帰省された皆さまは、涼しさを感ずることなく戻られたのではないのでしょうか。

私事でございますが、この度、議長を拝命いたしました米田忠一でございます。安心安全な村づくりのため、議員一丸となって取り組んで参る所存でございますので、皆さまのご理解、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、今年には村の一大イベントである「野田まつり」が4年ぶりに3日間の開催と

なり、暑い中「山車」や「みこし」が練り歩き、子どもたちの元気な声が町中に響きわたり、大いに盛り上がるのと同時に、村民たちは「ホッ」とした様子でした。東日本大震災で街並みは大きく変わってしまいましたが、昔ながらの「まつり」が残る野田村を、子どもたちに残していただけるよう、一緒に頑張りたいと思います。



最後に会員の皆さま、ご家族の皆さまの益々のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

野田まつり・のだ港まつり開催



下組山車



中組山車



上組山車

野田まつりが、8月25日から27日にわたり開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大以前と同様に、3日間での開催となった今年の野田まつり。来場者らは、元氣な掛け声や笛、太鼓の心地よいお囃子に胸を躍らせながら、勇壮な山車やみこしの運行を笑顔で見守りました。



子どもみこし



のだ港まつり海上パレード

19年ぶりとなる、のだ港まつりが8月26日に開催されました。漁師らが神事に参列し、操業の安全と大漁を祈願しました。その後、大漁旗をなびかせた第二十八浜山丸などの漁船による海上パレードが行われました。



祭りの最後を飾る打ち上げ花火

野田はまなす会総会・ふるさと交流会の様子



交流会の様子



交流会の様子



来賓あいさつ
東京さまに会
会長 橋爪 年幸 様



来賓あいさつ
東京大野つばさ会
会長 福島 義男 様



二次会の様子



お楽しみ抽選会



野田村観光大使
伊藤 多喜雄 様 (写真左)



ハイクラソーナ演奏
佐野 啓 様 (写真左)
岡野 智光 様 (写真右)

岩手県人会

春季献血活動

5月28日に池袋駅東口において、岩手県人会の春季献血活動（日本赤十字社への協力活動）が行われました。

野田はまなす会からは、桜庭顧問、久慈会長、山根・米田両副会長、坂本幹事長、戎谷幹事の6人が参加しました。秋季は11月5日に同じ場所で開催する予定です。ご協力をよろしく願います。



岩手県人会献血活動に参加

野田はまなす会

第2回役員会開催

8月6日に、目利きの銀次虎ノ門店で役員会を開催しました。出席者は桜庭顧問、久慈会長のほか11人でした。



第2回役員会の様子

久慈会長から報告事項として、岩手県人会献血活動について、令和6年2月4日に岩手県人会新春の懇親会が上野東天紅で開催されると報告がありました。年会費未納者が59名との報告があり、対応を検討したいと考えています。

また、はまなす通信は予算の都合上、67号は4ページで対応するなどの話がありました。そのほか、令和6年度総会・交流会は、6月23日に予定しています。第3回役員会を令和6年1月7日、同会場で開催すること、令和5年度日帰りレクリエーションの日時と場所を決定しました。

友好団体との交流

6月24日に、久慈高校東京支部同窓会の集いが、銀座で開催された。久慈市から澤里副市長、野田村から小田祐士村長、野田はまなす会から桜庭昌吾顧問、久慈士郎会長などを来賓に、約70人の出席者があり、交流を深めることができました。

また、7月2日には久慈地区高校東京同窓会（久慈工業高・久慈東高校）の集いが、神田神保町の

学士会館で開催されました。野田はまなす会から桜庭顧問、久慈会長、坂本悟幹事長、戎谷牧子幹事が出席しました。久慈市の澤里副市長をはじめ両校の校長先生、教職員の先生などの出席をいただき総勢50人での交流会でした。久慈地区高校東京同窓会には、多くの村出身者が深く関わっているため、野田はまなす会の会員拡大につながればとの思いです。



岩手県人会

令和5年度 日帰りレクリエーション
「食べて、飲んで、ふるさとを語る バーベキュー大会」

- ・期日 10月8日（日）午前10時～
- ・場所 千葉県松戸市「21世紀の森と広場」（木もれ陽の森のバーベキュー場）
- ・集合 JR武蔵野線「新八柱駅」南口出口
新京成線「八柱駅」
- ・会費 3,000円
- ・申し込み先（埼玉県幹事）
会長 久慈 士郎 090-5567-5795
担当幹事 坂本 悟 090-4841-3612
桜庭 昌吾 090-9002-4356
大沢 清子 090-2230-9426

【あとかき】

- ◆東京銀座の、ど真ん中の一等地で、イタリア有名ブランド「アルマーニ」の制服で有名な泰明小学校の真向かい、【PARTY For ETERNITY】（パーティフォーエタニティ）で、野田はまなす会総会・ふるさと交流会が行われるとは、狂気の沙汰かと、一瞬耳を疑うような出来事に思われた。
- ◆階段で地下2階まで降りて、会場の扉を開けると、そこは聞きなれた訛りが飛び交い、銀座の地にふさわしくない野田弁丸出しの世界が溢れていた。
- ◆ああー、やっぱりここは野田だと、安心をした。いったいこの安心感はどこから来るのか。それは生ま育った故郷の匂い、空気感ではないだろうか。
- ◆小生が卒業時の野田小学校校歌、♪明治九年の秋たけて～、♪菊かもかおる城内に～、♪重き使命をにないつつ～、♪いしづえかたく～、♪築かれて～、♪我が学び舎は生い立てり～♪
- ◆銀座の名門小学校より、古い歴史を刻む、野田小学校生は、アルマーニは着てはいませんが、心に錦を着ています。
- ◆古い野田小学校校歌から、先人の文化の香りを感じます。重き使命を担う大勢の、野田弁がますます聞こえてくる事を祈ります。（M・Y）